

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
放課後等デイサービスじゅれーとびっこ		2025年 3月 22日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		利用人数10人に対して指導訓練スペースを確保している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		有資格者・児童発達支援管理責任者・保育士児童指導員が職員として勤務・加配加算を取っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		活動スペースはバリアフリー食事（おやつ）の部屋と分けられている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		療育施設の整理整頓、または換気・湿度等にも注意をし毎日の清掃もチェックリストを用いて取り組んでいる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		児童の体調（不穏時）を配慮し休む場所がある。または個別での対応を提供するための部屋がある。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		自社開発の業務運営管理システムにて目標設定し、期限を決めて取り組んでいる業務内容についてはブリーフィングでの周知を徹底。また職員が参画する場を設け、より業務効率・業務改善が図れるよう努めて参ります。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		放課後等デイサービスのガイドラインに基づく利用者アンケートを実施し、意向等を反映している。顧客満足度向上に向けてこと、同時に職員の質をあげることに繋がることと受け止め、業務改善に生かしていくよう努めている。	毎年、保護者様同士での情報交換の場があると良いとご意見をいただいているので、機会を設けていきたいと思う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		支援後のデブリーフィングの時間に職員の意見交換の時間を設けより良い業務に繋がるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		外部から頂いた評価をもとに、改善点について話し合い今後の業務に繋げている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		県や自治体開催の研修に参加、またサボカレの動画研修を取り入れてスキルアップを図っている。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		管理者・児責・支援スタッフで個々の児童に合わせたプログラムを作成している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		通所前にアセスメントを行い保護者のニーズや課題を分析し発達段階に応じた個別プログラムを実施計画に反映している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画を作成する際には検討会議を開催し職員全員で対象児童について話し合いを行い支援の共通理解をしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		放課後等デイサービス計画は職員間に共有している 職員は計画を意識した支援を提供している	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたアセスメントツールを使用していますが、今後はABA等のツールも活用していくよう努めて参ります。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		具体的な支援内容が設定されている。 個別の時間の提案として本人の強みを見つけながら強みの幅が広がるような地域連携を項目を記載。	

適切な支援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		管理者・児責・支援スタッフで個々の児童に合わせたプログラムを作成している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		活動は個別プログラム・集団支援両面で発達支援を行っている。プログラム更新会議も定期的に開催し固定化しない工夫をしている	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		発達段階に応じた個別プログラムを実施計画に反映している。コミュニケーション・日常生活・社会性スキルの3分野に特に力を入れている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前にはブリーフィングを行い情報共有し、当日の役割を確認している。支援中も報連相を行い急な予定変更にも対応が出来る。	パートさんへの情報共有も今以上に丁寧に 行っていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		個々の児童支援日誌を記入し、活動支援の振り返えを行いスタッフと支援について話し合いを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録を基に、スタッフ間の情報を共有し合い意識付けを行っている。記録のとり方や視点等について、より適切な記録となるよう、記録の点検確認と指導を定期的に行うよう努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年に1回の保護者面談を行い、支援の見直しを行っている。適切な支援へと繋がるよう、見直しの必要性がある際は、スタッフ間でよく協議を行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○		ガイドラインの基本を活動に加え、就労や自立に向けたプログラムを考え活動の範囲を広げている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		自己選択を必要とする場面を設定し機会を設けている。 また自分で選択した事を最後までやり遂げる事で成功体験を積んでいる。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児童発達支援管理責任者が参加し状況の理解し内容を職員周知している	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		関係機関と連携して支援を行う体制を整えている	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校主催の連絡会議に出席し、児童の様子や下校時の引き渡し時等の情報交換を行っている。日々のご様子や支援内容について共有する機会を増やし、必要に応じてサービス担当者会議の開催を行い、支援の幅を拡大出来るようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		各施設の担当者や相談支援事業所を通して、情報共有を行い理解度を深めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		情報提供を行っている。または、必要な場合は面談を設定し情報の共有を行っている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		埼玉県発達障害総合支援センターが主催する研修に参加している。発達に関する情報交換も併せて助言を頂いております。今後も連携の機会を増やして参ります。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		イベント参加や地域の児童館、図書館（お話し参加）公園などにお出掛けをし交流を持っている。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域自立支援協議会には毎回出席し、情報収集や研修などの機会に参加・他事業所との交流も行っております。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時の引継ぎは丁寧に対応しています（活動内容等）また気づいた点は面談等の機会を持つようにしております。今後とも保護者様との関わる機会を大切に支援致します。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者様からのニーズ、ご意見等、汲み取り、ご家族様支援の機会を設けられるよう努めていく。	自治体が行っている研修の場もご案内させていただいております。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用契約時に、重要事項説明書の説明と共に利用にあたっての留意点を丁寧にやっている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		相談会や見学会 半年に1回のモニタリング報告の際にもこどもや家族の意向を確認する機会を設けている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		半年に1回のプラン・モニタリング報告の際に放課後等デイサービス計画の同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご相談頂いた際には、取り扱いに注意し丁寧に傾聴と誠実にお応えすることを全職員大切にしております。	お子様の日々の様子を保護者様に見ていただけるよう見学会や相談会を企画し、実施していく予定です。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	○		まだ実績はないが保護者同士の連携の支援を行う。	保護者様同士の相談会等企画し、お力添え出来るよう進めたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情が生じた際には手続きに沿って迅速かつ適切に対応を行い、申し出者様へ不快な思いをさせないよう努めております。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		ホームページにて活動報告を記載している。ブログの更新案内をしている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報保護に努めている。鍵のかかる書庫にて管理するなどして情報保護に努めている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		保護者様からの聞き取りなどで本人の特性などを把握し支援に活かしたりメール利用などで情報共有に努めている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		まだ実績はないが、今後は地域住民を招待する企画を予定している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		作成している。職員研修会、訓練等を計画し行っている	今後はご家族様向けの説明会の開催、周知を進めて参ります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		水害・火災・地震を想定した避難訓練を年2回実施している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		アセスメント時に詳しく確認をする事を前提に都度状況の確認を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		契約時にアレルギーの確認を行い、食育支援を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		作成している。職員研修会、訓練等を計画し行っている 安全管理が十分された中で支援が行われている	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		周知が出来ている。 緊急連絡網の作成も行い、訓練も行っている。	定期的な緊急連絡網の見直しをしていく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事故やヒヤリハットがあった場合は報告書を提出し、またその件についての話し合いを行い再発防止に取り組んでいる。	

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待やグレーゾーンの観点から事業所内研修や話し合いを設け、虐待について意識合わせのもと支援を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		お子様の特性に応じた方法を検討し、事前に保護者様に説明・了承を得たうえで支援計画上に反映することになっている。身体拘束を行った場合は、その都度状況を保護者様に報告。	